

平成24年第2回定例会
戦略企画雇用経済常任委員会説明資料
目次

◎所管事項

- 1 新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議について・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 「高等教育機関と地域との連携の仕組みづくり」について・・・・・・・・ 5
- 3 広域連携について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 4 審議会等の審議状況について（報告）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

平成24年12月11日
戦略企画部

1 新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議について

1 目的

「新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議」（以下「推進会議」という。）は、新しい豊かさ協創プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）の進捗状況をさまざまな主体と共に確認し、現場での実践経験等を踏まえた意見をいただきながら、課題やその解決策について議論し、よりよい取組につなげていくことを目的とします。

2 推進会議の進捗状況

(1) 全体会議及び第1回推進会議

① 全体会議（7月8日）

5つのプロジェクトの委員及びファシリテーターが一堂に会する全体会議を開催し、「みえ県民力ビジョン」の基本理念、推進会議の役割について説明するとともに、知事と「幸福を感じる時」、「活動自慢または新しい豊かさ協創プロジェクトのテーマについて」を話題に意見交換を行いました。

② 第1回推進会議（7月8日、ウのみ10月31日）

プロジェクト及び実践取組の概要説明後、意見交換を行いました。

ア 未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト（教育委員会）

子どもの学力向上に向けての課題や今後の取組方向について意見交換を行いました。

イ 夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト（スポーツ推進局）

地域スポーツの推進や競技力の向上のために、何が必要であるかについて意見交換を行いました。

ウ スマートライフ推進協創プロジェクト（雇用経済部）

プロジェクトの推進体制である「みえスマートライフ推進協議会」及びスマートライフ推進にかかる住民や企業のニーズを把握する基礎調査の実施について説明するとともに、プロジェクト推進に向けた意見交換を行いました。

エ 世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト（観光・国際局）

プロジェクトの取組方向に関して、今後、議論していくテーマ、課題について意見交換を行いました。

オ 県民力を高める絆づくり協創プロジェクト（戦略企画部）

（概要は別紙参照）

(2) 第2回推進会議

プロジェクトの上半期の進捗状況及び次年度の取組方向等について議論する第2回推進会議を下記のとおり開催し、いただきたい意見、提案等を平成24年度の取組改善につなげるとともに、平成25年度当初予算要求への反映に努めました。

ア 未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト（11月12日）

全国学力・学習調査結果の活用、保護者や地域との情報共有・連携などについて意見交換を行いました。

イ 夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト（10月16日）

社会全体の中でのスポーツの位置づけ、スポーツのすそ野の拡大、障がい者スポーツの振興などについて意見交換を行いました。

ウ 世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト（10月9日）

「情報発信」「おもてなし」「観光の産業化」などにおける、短期、中期、長期の視点から取り組むべき内容について、意見交換を行いました。

エ 県民力を高める絆づくり協創プロジェクト（10月5日）

（概要は別紙参照）

3 今後の予定

今後、3月末までに平成24年度の取組を検証する推進会議を開催し、いただいた意見を平成25年度の取組に活用します。また、推進会議の意見として成果レポートに記載します。

「県民力を高める絆づくり協創プロジェクトの推進会議」について

1 県民力を高める絆づくり協創プロジェクト

(1) プロジェクトの目標（みえ県民カビジョン・行動計画でのめざす姿と到達目標）

さまざまな分野において、多くの県民の皆さんが、アクティブ・シチズンとして自らの個性や能力を発揮しながら、地域の課題解決に主体的に取り組み、成果を上げるとともに、充実した生活を送っています。

このような社会をめざして、子どもや若者をはじめ、外国人住民や障がい者など、さまざまな主体の参画を促進するための支援や場づくり、連携の仕組みづくりに取り組むことにより、4年後には、より幅広い層の県民の皆さんが、自らの能力を発揮しながら積極的に社会に参画したり、地域づくりの担い手として、地域の課題解決に取り組んだりしています。

(2) 実践取組

- ①実践取組1 「次代を担う子ども・若者の県民力を高める仕組みづくり」
- ②実践取組2 「さまざまな事情で支援が必要な県民の皆さんの能力発揮・参画の支援」
- ③実践取組3 「『美し国おこし・三重』の新たな展開」
- ④実践取組4 「NPOの活動を支える仕組みづくり」

2 県民力を高める絆づくり協創プロジェクトの推進会議について

(1) 第1回推進会議（7月8日）

プロジェクトの概要及び24年度各事業の説明後、幅広い層の地域活動への参画について意見交換を行いました。

【主な意見】

- 民間の従業員の方が、休日に一個人として地域の活動に参画いただけるよう働きかけることが重要。そのためには、地域にメリットがあることに参画するような発想の転換が必要である。
- 学生のボランティア団体は、団体毎で連携する層の強み、弱みが異なる。また、学生の立場から色々な層にアプローチするのは、限界がある。
- 行政は、関わりの薄い層に参画してもらえる仕組みづくりなどチャンスメーカーの役割を担うべきである。
- 行政による住民参画の仕組みづくりにあたっては、住民の主体性が発揮しやすくするような緩やかな設計も必要である。

(2) 第2回推進会議(10月5日)

各事業の進捗を踏まえ、成果と課題、協創の推進について委員と関係課で意見交換を行いました。

【主な成果の例】

- 外国人住民等が地域の活動などに参画できる機会は増加している。
- NPOとさまざまな主体との協創においては、さまざまな利害関係者が参画した意見交換が行われるようになってきた。
- 「美し国おこし・三重」においては、行政の関与がなくても自ら積極的に地域活動に参画する取組が増加している。

【主な課題の例】

- 高等教育機関と地域との連携においては、学生が地域活動に求める情報を届ける仕組みの構築が必要である。
- 各取組の共通事項として地域活動に参画する人を増やしていくためには、それをサポートする中間支援などコーディネートできる人材や組織の育成が重要である。
- 「美し国おこし・三重」においては、成果を継承し、継続していく仕組みが課題である。
- さまざまな分野においてアクティブ・シチズンとして活動したいと思っている人はいるので、それらの人を発掘することが重要である。

【主な意見】

- 住民の方にいかに地域や社会の活動に参画してもらうかが課題であり、場をどう作り、つなげていくかを考えていく必要がある。
- ボランティアは集まるが、ボランティアをコーディネートする人がいないので続かない、拡がらない。
- 祭にしても継続していくためには、自分たちがやっているという主体性がないと継続しない。
- アクティブ・シチズンとは、アクションするための目標を持ち、それだけではなく、自ら提供できる人のこと。一方で困っていることを素直に話せる人は、さまざまな団体とネットワークができるなど問題解決が早い。
- 行政と住民の協働では、住民の頑張りを支える行政であって欲しい。

2 「高等教育機関と地域との連携の仕組みづくり」について

1 目的

「高等教育機関と地域との連携の仕組みづくり」は、より多くの学生や教職員が、地域のことに関心を持つとともに、地域の課題解決に向けた実践活動に取り組む仕組みづくりを目指すもので、「みえ県民カビジョン・行動計画」の選択・集中プログラム「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」の実践取組に位置づけられています。

2 取組概要

具体的な仕組みづくりに向けて、「きっかけづくり・参画機会の提供」「取組の共有と実践の支援」「すそ野の拡大」の3つの観点から、事業を展開しています。

(1) 交流フォーラム

学生に対して地域活動へ参画する場やきっかけを提供し、地域が実際に抱える課題の解決に向けて、学生と企業、行政、教育、NPO等が解決に向けた意見交換や取組を実践します。平成24年度は、地域、大学、関係部局・団体等から提案のあった5つのテーマについて、学生とのマッチングを行い、取組を進めています。

- ① 商店街サポーター支援事業
- ② 若者がまちづくりに関わる仕組みづくり
- ③ 全国まちづくりカレッジの開催
- ④ 「第5回匠の里伊勢型紙フェスタ」を活用した地域づくり
- ⑤ 地域農産物（玉城ブドウ）栽培の活性化

(※各交流フォーラムの進捗状況は別紙参照)

(2) ベストプラクティスコンテスト

今年度実施した交流フォーラムや既にこれまで学生が取り組んできた活動の成果を県民の皆さんと共有するための発表の場として、2月にベストプラクティスコンテストを開催します。

コンテストを一般公開するとともに、発表事例を取りまとめて周知するなど、県民の皆さんや学生間で広く取組や成果を共有できるように努めます。

開催日時：平成25年2月10日（日）13:00～16:00

開催場所：三重県庁 講堂

(3) 大学・地域連携シンポジウム

活動する学生や連携に取り組む地域のすそ野の拡大のため、大学関係者、地域活動に興味のある学生、学生との連携に前向きな地域の皆さんを対象にシンポジウムを開催します。

より多くの学生や県民の皆さんと情報共有することが望ましいことから、「ベストプラクティスコンテスト」と同日に開催する予定としています。

3 今後の進め方（仕組みの検討）

今年度実施した交流フォーラム等で明らかになった

- ① 地域と学生をマッチングするコーディネート機能の強化
- ② 学生の参加を促すための効果的な情報提供のあり方
- ③ 地域貢献活動のカリキュラム化、単位化など高等教育機関等の仕組みとの連携

などの課題について、高等教育機関等関係者とともに検討し、より多くの学生の地域活動への参画を促進するための仕組みづくりに取り組みます。

各交流フォーラムの進捗状況

(1) 商店街サポーター支援事業

にぎわいのある魅力的なまちづくりのために、商店街関係者と学生等が話し合う意見交流の場を設け、商店街等を支援する持続可能な仕組みづくりを検討します。

- 参加校：四日市大学、鈴鹿工業高等専門学校、皇學館大学
- 連携主体：三重県商店街振興組合連合会
(モデル地区：四日市市)
- 活動概要：四日市市の商店街をモデル地区として、仕組みづくり検討委員会と下部組織の学生部会を設置し、商店街側、学生側のニーズ、課題等を取りまとめました。今後は、参加する学生の役割や具体的な支援のあり方、地域との連携方法などについて検討していきます。

(2) 若者がまちづくりに関わる仕組みづくり

学生などの若い世代が、もっとまちづくりに参加するために必要なことについて、学生、地域、NPO、企業、行政などさまざまな主体と一緒に議論する場を設け、そこで出された課題や提案を踏まえて、若者がまちづくりに関わる仕組みづくりを検討します。

- 参加校：三重大学、皇學館大学、鈴鹿工業高等専門学校、名城大学
- 連携主体：企業、NPO、市町、地域団体等
- 活動概要：まちづくりに主体的に関わる人材を育成するため、学生を対象にまちづくりのためのファシリテーション研修を実施しました。また、若者がまちづくりに関わる仕組みの先進的な事例である鳥取県の学生人材バンクの取組を学ぶため、スタディ・ツアーを行いました。

今後は、「若者がもっと地域で活躍するには」をテーマとして、さまざまな主体と一緒に議論する交流フォーラムを研修の受講生が中心となって企画します。

開催日時：平成24年12月22日(土) 13時から17時まで

開催場所：三重大学 環境・情報科学館3階

(3) 全国まちづくりカレッジの開催

地域活動に取り組む学生間の交流と情報共有を目的としてこれまで開催されてきた全国まちづくりカレッジを、三重県で開催することを契機に、学生の地域活動を点から線へつなげていくための取組を検討します。

- 参加校：(県内) 皇學館大学、四日市大学、宇治山田商業高校
(県外) 11校

- 連携主体：外宮参道、伊勢市他
- 活動概要：11月17～18日に伊勢市で第13回全国まちづくりカレッジを開催しました。新道商店街の活性化に取り組む皇學館大学の「宇治☆山田プロジェクト」のメンバーが中心となり実行委員会を立ち上げ、外宮参道でのフィールドワーク、活動報告会、それぞれの活動を点から線へつなげていくための広域連携の可能性について知事を交えて議論する交流フォーラムなどを企画・運営しました。今年度は、皇學館大学を合わせて全国各地から14校、約200名が参加しました。

(4) 「第5回匠の里伊勢型紙フェスタ」を活用した地域づくり

古くからの伝統工芸である伊勢型紙の技を通して、地域資源を広く紹介するイベントを学生がスタッフとして支援することで、地域のことを学ぶきっかけとするとともに、地域づくりや地域資源の活用について学生の視点からの提案を検討します。

- 参加校：鈴鹿国際大学、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿工業高等専門学校
- 連携主体：伊勢型紙産地協議会、白子まちかど博物館
- 活動概要：11月3～4日に開催された「第5回匠の里伊勢型紙フェスタ」に、鈴鹿市内にある高等教育機関の学生がボランティアスタッフとして参加しました。今後は、地域の皆さんと学生との意見交換の場を設けていきます。

(5) 地域農産物（玉城ブドウ）栽培の活性化

近年、生産者の高齢化や後継者不足により、ぶどう農園の維持が困難になっている玉城町勝田地区で、玉城産のぶどうのPRとぶどう栽培の活性化を目的とした「ぶどうフェスタ」の実施に協力することで、地域の課題を共有するとともに、今後の展開について地域の皆さんと検討します。

- 参加校：高田短期大学
- 連携主体：玉城町青年会、玉城町商工会他
- 活動概要：8月18日に開催された第2回玉城勝田ぶどう祭りのイベントスタッフとして、事前準備から参加するとともに、実行委員会の皆さんと玉城ブドウの活性化に向けての意見交換を行いました。

3 広域連携について

1. 平成24年度の各知事会議について

県単独では解決することが難しい課題に対し、より効率的、効果的に解決していくとともに、共通の政策課題に対して、圏域の枠を越えた交流・連携の取組を推進するため、「全国知事会」のほか、中部圏では「中部圏知事会」・「東海三県一市知事市長会議」、近畿圏では「近畿ブロック知事会」・「紀伊半島知事会議」に参画するとともに、国土の中央部に位置する三重県、福井県、岐阜県、滋賀県による「日本まんなか共和国知事サミット」、有志の知事による「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」に参画しています。

また、今年度から、近年の複雑・多様化する政策課題の解決につなげるため、共通課題等を有する2県間で知事会談を実施しています。

(平成24年度の各知事会議の開催状況及び今後の予定)

知事会議の名称	構成府県市等	開催状況
全国知事会議	47都道府県	H24. 5. 18 東京都 H24. 7. 19~20 香川県 H24. 11. 2 東京都
中部圏知事会議	(中部9県1市) 三重・富山・石川・福井・長野・岐阜・静岡・愛知・滋賀・名古屋市	H24. 8. 6 滋賀県 H24. 11. 7 石川県
東海三県一市知事市長会議	三重・岐阜・愛知・名古屋市	H24. 5. 1 愛知県名古屋市
近畿ブロック知事会議	(近畿2府8県) 三重・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・徳島・鳥取	H24. 5. 30 鳥取県 H24. 10. 25 福井県
紀伊半島知事会議	三重・奈良・和歌山	H24. 4. 24~25 三重県鳥羽市
日本まんなか共和国知事サミット	三重・福井・岐阜・滋賀	H24. 4. 16 岐阜県
ふるさと知事ネットワーク知事会合	三重・青森・山形・石川・福井・山梨・長野・奈良・鳥取・島根・高知・熊本・宮崎	H24. 8. 8 島根県
2県知事会談	三重県・島根県 三重県・岐阜県	H24. 8. 9 島根県出雲市 H24. 8. 17 岐阜県大垣市

2. 近畿ブロック知事会議

(1) 概要

10月25日(木)、福井県あわら市において、標記会議が開催されました。本県からは植田副知事が出席し、「防災対策及び広域インフラの整備促進」、「有害鳥獣捕獲の担い手対策」などについて議論が行われました。

また、下記事項について、国へ提言していくこと等について合意されました。

(2) 合意事項

(国へ提言を行うことが合意された事項)

- ①南海トラフ巨大地震対策の強化について(兵庫県・徳島県提案)
- ②広域的な交通のリダンダンシーの確保について(徳島県)
- ③新名神高速道路及び近畿自動車道紀勢線の早期整備について(三重県)
- ④地方特定道路整備事業及び地方道路整備臨時貸付金の制度延長について(三重県)
- ⑤緊急雇用対策事業の増額・延長及び要件緩和について(京都府)
- ⑥女性活躍推進による地域・経済を活性化するための交付金創設について(滋賀県)
- ⑦有害鳥獣捕獲の担い手対策について(滋賀県)
- ⑧森林・林業再生のための新たな支援策について(福井県)

(その他の合意事項)

- ・近畿圏危機発生時の相互応援の基本協定について、現在、近畿圏の府県同士で締結している相互応援協定に関西広域連合を入れて再締結することが確認されました。(関西広域連合と近畿2府7県)

3. 全国知事会議

(1) 概要

11月2日(金)午前、都道府県会館において全国知事会議が開催されました。同日午後は首相官邸において政府主催の全国都道府県知事会議が開催され、各閣僚との懇談の後、総理大臣との懇談が行われました。

(2) 主な内容

【全国知事会議】

次の項目について、各委員長から取組状況の報告が行われるとともに、必要に応じて国等へ提言を行っていくこととされました。

- ・平成25年度税財政等に関する提案について
- ・地方公務員の新たな労使関係制度について
- ・東日本大震災の被災地復興支援の推進について
- ・総合戦略・政権公約評価特別委員会の活動報告及び今後の活動方針について
- ・「日本再生」に向けた地方主権改革の推進について

【全国都道府県知事会議（政府主催）】

ア. 各閣僚との懇談

(7) 閣僚からの主な説明内容

- ・地方における行政改革について
- ・東日本大震災からの復興について
- ・日中間の経済及び人的交流について
- ・中小企業支援を含めた地域経済の活性化について
- ・建築物の耐震化、広域的な交通機関のネットワーク構築について
- ・中小企業に対する金融支援について
- ・南海トラフ巨大地震対策について

(イ) 本県知事の発言概要

本県知事からは、南海トラフ巨大地震対策特別措置法（仮称）の早期制定、市町の取組を踏まえた全国防災対策費の財源確保について要請を行いました。また、漁船「堀栄丸」の衝突海難事故について、あらためて原因究明と再発防止対策を要請しました。

イ. 野田総理大臣との懇談概要

野田総理からは、東日本大震災からの復興に加え、災害に強い国づくりを強力に推進していく旨の発言がありました。全国知事会山田会長からは、地域主権改革のさらなる推進等を要望しました。

4. 中部圏知事会議

(1) 概要

11月7日（水）、石川県金沢市において標記会議が開催されました。本県からは植田副知事が出席し、「生物多様性の保全に向けた各県市の取組」について協議が行われました。

また、本県からは、三重県首都圏営業拠点の整備について、PRを行いました。

(2) 合意事項

生物多様性の保全に向けた各県市の取組事例を紹介したうえで、中部圏の自然環境を守り、将来世代に引き継いでいくため、「生物多様性の保全の推進に関する宣言」が採択されました。

4 審議会等の審議状況について
(平成24年9月18日～平成24年11月19日)

1 審議会等の名称	三重県情報公開審査会
2 開催年月日	平成24年9月21日、9月27日、10月23日、10月26日
3 委員	会 長 早川 忠宏 会長職務代理 樹神 成、丸山 康人 委 員 岩崎 恭彦 他3名
4 諮問事項	開示決定等に係る不服申立事案等について
5 調査審議結果	不服申立て11事案について審議が行われました。
6 備 考	次回開催日：平成24年11月27日 今後の予定：不服申立事案等処理のため、月2回程度開催 します。